

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律実技(アップライト)	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	144回(288単位時間)	年間単位数	9単位
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験:23年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、成長、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。				
授業概要					
毎日違うピアノ(YAMAHA、KAWAI、アポロ)のブースに入り、調律を行う。					
到達目標					
1台60分で調律する。 より実践的な調律技術の習得。「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～72回目	ピッチ変更なし1台 90分
	ピッチ変更なし1台 80分
	442Hzへ2Hz変更 100分 下律…約20分 本調律…約80分
【後期】 1～72回目	442Hzへ4Hz変更 120分 下律…約30分 本調律…約90分
	4Hz上げ 100分 下律込み。
	ピッチ変更なし 1台60分 本調律のみ。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	各自で毎日の目標を定め、技術、スピードの向上を図ります。就職試験やピアノ調律技能検定試験など、状況によって提示される課題は異なるため、さまざまな場面で対応できる技術の幅広さ、柔軟さを持つことも大切です。
使用教科書	項目ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律実技(グランド)	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験:9年 楽器店3年ほど勤務し、主にピアノの調律に関わる業務に携わる。その後、現在に至るまでフリーランスの調律師として活動中。				
授業概要					
YAMAHA、KAWAIのグランドピアノを使用し、90分で調律を行う。					
到達目標					
グランドピアノの調律を習得し、1台90分以内で仕上げることを目標とする。					

授業計画・内容	
<p>【前期】 1～19回目</p> <p>【後期】 1～19回目</p>	<p>■グランドピアノ調律の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根の開け方、鍵盤蓋・譜面台の取り外し方法</li> <li>・アップライトピアノとの調律方法の違い</li> <li>・各セクションでの工具の使用方法</li> </ul> <p>■調律方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピッチ採り、割振り</li> </ul> <p>音叉を使用し、440Hz 442Hzどちらかのピッチに合わせる。 その後、37A-42Dから割振りを始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中音オクターブの調律</li> <li>・低音オクターブ調律</li> <li>・高音オクターブ調律</li> <li>・低音、高音、中音 各セクションのユニゾン調律</li> </ul> <p>■各セクションでの工具の使い方について 調律方法はアップライトピアノとほぼ同じだが、工具の使用方法や使用箇所は異なるところもある。</p>
備考	上記工程を反復行うことで、グランドピアノならではの音を感覚的に捉えられるようになり、繰り返すほどその感覚は優れたものとなり、調律精度の向上、時間の短縮につながり、調律師としての技術力が向上する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	グランドピアノならではの音を感覚的に捉えられるようになるためには、反復トレーニングは欠かせません。繰り返すほどその感覚は優れたものとなり、調律精度の向上、時間短縮にもつながります。
使用教科書	項目ごとにテキストを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ演奏	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験:35年 業界企業特約店にて受験クラスのレッスンを担当。自宅及び出張の個人レッスンも行う。				
授業概要					
調律後に確認を行う際の演奏のための個人レッスン					
到達目標					
調律後に確認を行うための演奏技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	自由曲の選曲
【前期】 3～4回目	講師が指定したページまでのレッスン レッスン後は個々に練習して次回へ
【前期】 5～6回目	練習してきたもののチェック その後 直し
【前期】 7～8回目	通しレッスン
【後期】 1～2回目	強弱、表現のレッスン
【後期】 3～4回目	テンポ確認のレッスン
【後期】 5～7回目	通しレッスン(タイムを計る)
【後期】 8～10回目	通しレッスン 仕上げ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	演奏歴やレベルに合わせた個別レッスン。自由曲の楽譜は基本的に各自で用意となるが、学校にある楽譜であれば貸し出すことも可能です。
使用教科書	別紙譜面を配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ業界演習Ⅲ	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	/			
授業概要				
楽器業界の企業による製品・技術セミナーや学園祭での接客演習、リクルートセミナー				
到達目標				
楽器の専門知識の実践と、実際の応用方法を理解する				

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	楽器業界の企業による製品・技術セミナー
【後期】 1～2回目	学園祭：準備日①②
【後期】 3～4回目	学園祭：出店での接客実演とリペア実演①②
【後期】 5回目	学園祭：片付け、原状回復
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	実際に仕事を体験することで、進路に対しての興味を持ち積極的な行動ができるよう努めること。
使用教科書	適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調実技(アップライト)	授業形態 / 必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	1年次	1年次
		18~214回(36~428単位時間)	年間単位数	1~14単位
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験:29年 楽器店に15年ほど勤め、その後ピアノ調律事務所を独立開業し、現在に至る。			
<b>授業概要</b>				
修得した整調実技の能力を高め、時間短縮、技術向上を行う。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」の試験に向けた対策を行う。				
<b>到達目標</b>				
整調時間短縮、精度向上。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格				

授業計画・内容	
【前期】 1~107回目  ※個人の選択によって回数変動	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて ・から直し ・鍵盤ならし ・鍵盤あがき ・ハンマー接近 ・ハンマーストップ ・スプーン掛け ・ハンマーストップ ・スプーン掛け 計8工程の作業確認
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を30分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を20分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を15分で作業
【後期】 1~107回目  ※個人の選択によって回数変動	ピアノ調律技能検定 実技試験に向けて ポイントとなる工程の練習
	試験練習(30分×2セット) 判定後、直し
	試験練習(15分×3セット) 判定後、直し
	模擬試験
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	試験合格のためには日々コツコツと練習を重ね、着実に実技レベルを向上させていく必要があります。技術は作業を行えば身につくため、教室開放等も活用していきましょう。
使用教科書	項目ごとにプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調実技(グランド)	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18~214回(36~428単位時間)	年間単位数	1~14単位
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験:29年 楽器店に15年ほど勤め、その後ピアノ調律事務所を独立開業し、現在に至る。				
授業概要					
YAMAHAとKAWAIのグランドピアノを使用し、内部の構造や部品のつくりを理解しながら全24工程の作業を行					
到達目標					
鍵盤を押してから音が鳴るまでの各パーツの動きの理解、それらひとつひとつを調整して弾き心地を揃える技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1~107回目  ※個人の選択によって回数変動	1オクターブで調整(第1回目) 1.ネジ締め 2.フレンジ点検 3.ハンマー間隔直し 4.ハンマー走り直し 5.ハンマー角度調整 6.弦合わせ
	7.鍵盤調整 8.ベディングスクリュー調整 9.鍵盤ならし 10.鍵盤間隔直し 11.白鍵あがき 12.サポート合わせ
	13.ジャック前後調整 14.ジャック高さ調整 15.ハンマーならし 16.ハンマー接近 17.ハンマー戻り 18.黒鍵あがき
	19.働き調整 20.バックチェック合わせ 21.バックチェックワイヤー曲げ 22.ハンマーストップ 23.レペティションレバースプリング調整 24.アクション総点検
【後期】 1~107回目  ※個人の選択によって回数変動	1セクションで調整(第2回目) 1.ネジ締め 2.フレンジ点検 3.ハンマー間隔直し 4.ハンマー走り直し 5.ハンマー角度調整 6.弦合わせ
	7.鍵盤調整 8.ベディングスクリュー調整 9.鍵盤ならし 10.鍵盤間隔直し 11.白鍵あがき 12.サポート合わせ
	13.ジャック前後調整 14.ジャック高さ調整 15.ハンマーならし 16.ハンマー接近 17.ハンマー戻り 18.黒鍵あがき
	19.働き調整 20.バックチェック合わせ 21.バックチェックワイヤー曲げ 22.ハンマーストップ 23.レペティションレバースプリング調整 24.アクション総点検
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アップライトピアノの整調を身につけていることが前提です。同じ作業方法の工程や、その応用が含まれています。
使用教科書	項目ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	修理実技	授業形態 / 必・選	実習	必修
		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	年間単位数	1~14単位
		18~214回(36~428単位時間)		
科目設置学科コース	ピアノ調律研究コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験:23年 調律事務所にてピアノ調律業務に携わり、その後フリーランスの調律師として活動中。			
授業概要				
修得した技術の応用に新たな技術を加え、アップライトピアノ、グランドピアノの修理を行う。				
到達目標				
弦の張り替えや部品の交換等、総合的な修理、再生技術の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1~107回目  ※個人の選択によって回数変動	ハンマーシャンク修理
	センターピン交換
	フレンジブッシングクロス交換
	張弦キットを使用した張弦 「ピアノ調律技能検定 実技試験」で使用する張弦キットを用いての張弦
【後期】 1~107回目  ※個人の選択によって回数変動	バットフレンジコードの交換
	ブライドルテープ交換
	バットスプリングコード交換
	鍵盤ブッシングクロス交換
	張弦
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	各修理、期限を設けて計画的に作業を進めます。提出が必要な修理に関してはテキストを見ずに作業が行えているかも評価します。
使用教科書	項目ごとにテキスト配布。